

令和3年度 「特色ある学校づくり対策事業」 実践報告

ふるさとを愛する子ども
感性豊かな子ども
しっかり考える子ども
たくましく元気な子ども



佐世保市立小佐々小学校

所在地 佐世保市小佐々町田原290-1

校長名 松尾 英治

児童数 191名 学級数 10

1 テーマ

『自然・地域体験的活動を通じた心豊かな児童の育成と学力向上』

2 目的

本校は佐世保市の西端に位置する小佐々町にあり、海・川・山と豊かな自然に囲まれている。また、昔から地域住民と児童との結びつきが強く、地域の人々の温かい支援に支えられながら教育活動を展開している。その豊かな自然や、地域の力を活用し、本校のめざす児童像である『ふるさとを愛する子ども 感性豊かな子ども しっかり考える子ども たくましく元気な子ども』を育成する。

(1) 豊かな自然や地域の人々との関わりを大切にしながら様々な体験活動やあいさつ運動を導入し、児童の豊かな人間性を育てる。

(2) 確かな児童の実態把握に基づき、目標を明確にした指導及びスキル学習や読書活動の充実を図り、学力向上をめざす。

3 実践内容

(1) 自然・地域体験活動・あいさつ運動

① さつまいもの植え付け・収穫

6月9日に、2年生の児童、地域の方2名とともにさつまいもの苗の植え付けを行った。植え付けの前は地域の方に畑の準備をしていただいた。始めに、地域の方に植え付けの仕方を教わってから活動した。植え付け後は、収穫する

まで、児童は定期的に成長の様子を観察したり、水やりや草取りをしたりすることで、自分たちが植えたさつまいもを育てる喜びと大変さを実感することができた。

11月5日に体験活動支援の地域の方のご指導のもと、いもほりを行った。事前に地域の方がさつまいものつるをはらってくださっていたおかげでさつまいもはとても掘りやすい状態だった。さつまいもをたくさん収穫することができたので、児童の家へ持ち帰ることもできた。振り返りの時間には、おうちの人に作っていただいたさつまいもを使った料理等の話題で盛り上がっていた。児童は、植え付けから最後まで収穫の喜びと地域の方への感謝の気持ちを抱きながら活動することができた。

②田植え・稲刈り

本校では毎年、地域の方に水田をお借りし、管理を委託する方法で、5年生がもち米を栽培している。

今年は、6月10日に田植えを行い、10月8日に稲刈りを行った。児童は、田植え・稲刈りともに地域の方の指導を受けながら、時間いっぱい意欲的に活動した。安全上の理由から除草や日常の管理については水田を管理している方にお世話になっているが、校外学習として、今年度配付されたタブレット端末を活用し、稲の生育状況の観察を数回行った。

秋の稲刈りでは収穫の苦労と喜びを体験をすることができ、有意義な学習となった。

③「おさかなあいさつ」運動

海光る町学園の三校の生活指導部で話し合い、共通理解・共通実践ができるあいさつ運動としてスタートし、現在もコミュニティ・スクールの大きな柱の一つとして継続し、取り組んでいる。「おおきなこえで、さきに、かおをみて、なまえをよんで」の頭文字と小佐々町の象徴である魚を絡めて「おさかなあいさつ」運動と名付け、本校の伝統である朝のなかよし橋での「あいさつ運動」等の充実を図りながら、日々のあいさつが少しでも向上するように取り組んでいる。



2月25日、かがやきっ子会議をオンラインにより開催した。小佐々地区三校の児童生徒が、共通実践事項である「おさかなあいさつの取組状況」や三校の共通実践項目として取り組んだ「困っている人がいたら進んで助けよう」

「ふわふわ言葉・あったか言葉を使おう」についての取組の成果や課題を話し合った。また、次年度の共通実践事項についても児童生徒間で熱心な協議が行われた。

今後もかがやきっ子会議での協議を生かし、おさかなあいさつをはじめとして、共通実践項目について、学校、家庭だけでなく、地域において継続して取り組んでいきたい。

(2) 児童の実態把握に基づく学習意欲を高め、基礎力の定着を図る取組

令和3年12月に実施した国語科と算数科の標準学力検査の分析結果を基に、昨年度に引き続き、指導法の改善を行いながら、指導を進めてきた。児童に身に付けさせたい力を明確にした学習指導及びスキル学習による基礎基本の定着、読書活動の充実に、今年度導入されたタブレット端末を効果的に活用することを目指し、継続して取り組んできた。

① スキル学習の充実

全学年、火曜日の朝の時間（スキルタイム算数）を利用して基礎的計算技能の定着及び思考力を高めるための取組を続けている。それぞれの児童の力に応じたスモールステップで学習を進めることができるようプリントを準備し、協力してくださる地域の学習ボランティア（丸付け先生）方と共に進めている。今年度は、配付されたタブレット端末の活用も併用して行った。



なお、地域の学習支援ボランティア（丸付け先生）の方々が来校しての実施は、感染症拡大防止のため、11月と12月のみとなった。

② 読書活動の充実による豊かな心の育成と言語力向上

地域や保護者のボランティアグループだけでなく、担任以外の教員や中高学年が低学年に読み語りをするなど、多様な形での読み語りを定期的に実施した。図書室の環境整備や本の修理がなされ、児童が読書活動により意欲的に取り組めるようになり、図書室の貸し出し冊数にも表れていた。図書館教育担当者と学校司



書と連携し、継続的に児童の言語環境を整え、豊かな心を育成できるよう、時期に応じた掲示物を工夫している。

③標準学力検査を活用した実態把握と指導法の工夫

12月に全学年を対象に国語科と算数科における標準学力検査を実施した。調査結果を分析し、それぞれの学年・学級・個々の児童における課題を明確にし、授業改善と学習指導の工夫改善への取組を継続している。12月の調査結果を昨年度と比較し、各学年の課題も明確になった。次年度の指導にも生かしていきたい。

また、分析結果を基に個別指導や授業改善にも役立てている。全職員が分析結果を共有することで、各学年の系統を意識した指導に当たることができている。次年度も標準学力調査を実施したい。

(3) コミュニティ・スクールへの充実・発展

小佐々地区小中3校は、小中一貫型コミュニティ・スクールとしての取組を本格的に進めている。広報の一環として、看板を掲げ、地域へカレンダー（CSカレンダー）や広報チラシ（CSだより）を配布した。また、「おさかなあいさつ」運動の推進のために幟を掲げたり横断幕を取り付けたりすることで啓発を図っている。継続して学校・地域が一体となって取り組んでいるところである。

コミュニティ・スクールの発足後、小中一貫型の学習を進めるために作成したカリキュラムをもとに、中学校の教師が、6年生の外国語科、理科、算数科の学習に入り、専門性を生かした指導を行う体制を整えている。しかし、今年度は、感染症拡大防止対策等により乗り入れ授業を実施することができなかった。

また、小中一貫型の特色として今年度より低学年から外国語の学習を取り入れた。ALTから外国の様子を聞いたり、簡単な英会話をしたりする児童の表情から、楽しく英語の学習に取り組むきっかけになったことが伺えた。

